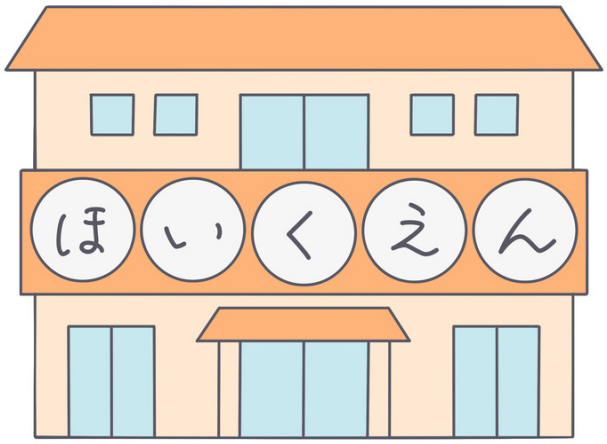
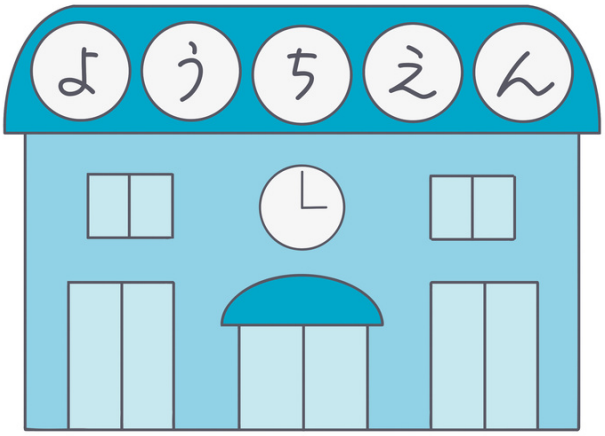


2022年度

外国人住民子育て支援モデル事業（綾瀬市との連携事業）

『外国人住民の未就学児が保育園・幼稚園に入るための仕組みづくり』調査の報告



公益財団法人 かながわ国際交流財団
Kanagawa International Foundation

内容

1　調査の概要

2　未就学児数の把握

3　保育園・幼稚園の受入状況の把握

4　外国人保護者への聞き取り

5　これからできること

6　「保育園・幼稚園のことを伝えるリーフレット」
多言語資料（日本語併記）

調査の概要

現在、神奈川県内の外国につながる子どもたちの保育園や幼稚園への入園については、保育園の申込手続きが煩雑なことや、幼稚園によっては入園を断られる状況もあり、日本人家庭に比べて「未就園児」※が多いことが想定され、それが一部の外国につながる保護者と子どもの「小学校への適応」をより難しくしている要因のひとつと考えられる。

そこで、かながわ国際交流財団（以下「KIF」という）は、外国につながる子どもが保育園・幼稚園に入園、そして通園しやすくなるための方策の基礎情報とするために、県内市町村のモデル地域として綾瀬市から協力を得て、外国人住民の保育園・幼稚園への入園状況や課題等を具体的に調べる3つの調査を実施した。

調査1： 未就園児数等の把握

令和元年（2019年）より、児童虐待防止対策のために厚労省の調査「乳幼児健診未受診者、未就園児、不就学児等の状況確認調査」が実施されることになり、自治体の母子保健担当部署が0～6歳児（乳幼児）数の把握を担当している。今回は綾瀬市の令和2年（2020年）6月1日から1年間のデータおよび外国籍数の内訳を、保健師から聞き取り調査した。（2022年5月19日実施）

調査2： 保育園・幼稚園の受入状況の把握

綾瀬市内の全ての保育園・幼稚園を対象に、外国につながる園児の受入に関するアンケート調査を行った。24園中22園が回答。現在外国人園児のいる園は21園、その他1園は今は在籍はないが以前はいたため全園からの外国人対応の課題を確認することができた。（回答期間：2022年5月30日～6月30日）

調査3： 外国人保護者への聞き取り

普段日本社会側には届きにくい外国人保護者の意見として、3名の外国人保護者及び1名の支援者へのインタビュー調査により、保育所・幼稚園に関する率直な声を聞くことができた。（2022年9月実施）

※ここでいう「未就園児」とは…
保育園・幼稚園の３歳～５歳クラスに該当する園に属さない未就学児

調査1：未就学児数等の把握

3歳以上の未就園率

表1　綾瀬市内未就学児数（年齢・所属の有無による内訳）

	総数	日本人 （外国籍でない）	外国籍	外国籍比率
未就学児数 （0～6歳）【A】	3,819	3,594	225	5.9%
うち、3～6歳児 【B】	2,066	1,932	134	6.5%
所属がある 【B】に占める割合	1,918 92.8%	1,839 95.2%	79 59.0%	4.1%
所属がない 【B】に占める割合	148 7.2%	93 4.8%	55 41.0%	37.2%

日本人

3歳以上の未就園児率

4.8%

外国籍

3歳以上の未就園児率

41.0%

※所属がある人数に関しては、インターナショナルスクール等も含まれている。

約8.5倍

綾瀬市の外国人未就園率は日本人未就園率の約8.5倍。

所属の無い未就学児数（0-6歳）

表3　綾瀬市内所属の無い未就学児数の内訳

	総数	日本人 （外国籍でない）	外国籍	外国籍比率
所属のない0～6歳数 前頁【A】に占める割合	1,351 35.4%	1,251 34.8%	100 44.4%	7.4%
乳幼児健診等で会えている 前頁【A】に占める割合	1,201 31.4%	1,126 31.3%	75 33.3%	6.2% --
乳幼児健診等で会えていない 前頁【A】に占める割合	150 3.9%	125 3.4%	25 11.1%	16.7% --

会えていない場合：

①　家庭訪問や面接により、市で安全を確認	127	110	17	13.4%
②　DV等の理由で施設入所	15	15	0	--
③　入管に照会し出国を確認	8	0	8	100%

現状では、
役所の中で定期的に入管まで確認して
外国籍の子どもの状況確認ができるのが

母子保健担当部署である

調査2：保育園・幼稚園の受入状況の把握

綾瀬市内の保育園・幼稚園において外国につながる園児数は201人※で、園全体の園児数に占める割合は7.7パーセント。 外国につながる園児数が最も多かった園における、外国につながる園児数は24人で園全体の園児数に占める割合も最多で27パーセントであった。アンケートから次の3つのことが明らかになった。

※前頁までの保健師からの調査結果は「外国籍」数、本アンケートでは「外国につながる」園児数であるため、数字に差異がある。

01.保護者とのコミュニケーション

全園から最も多かったのが、「保護者とのコミュニケーション」が困難であることに起因する課題であり、言語および文化の違い、日本社会の制度の理解不足などに困惑していた。→詳細は次ページで紹介

02.外国につながる園児への対応

日本語が理解できない園児への対応が難しいと感じている園は4園あった。子ども本人が自身の体調を訴えられなかったり、指示が理解できないで他の園児を見て行動しているため時間がかかるなどが挙げられた。

03.各園による手探りの対応

外国人保護者、園児への対応は、各園に委ねられており、職員が英語で対応する、知人に通訳を頼む、現物や絵を見せたり翻訳機やルビ振りを行うなど、独自にを工夫していた。そもそも保護者の日本語能力がわからない、特に緊急時にきちんと連絡がとれるか不安である、通訳等のサポートをどのように依頼すればいいのかわからない等、通訳や支援体制への不安についての指摘もあった。

保護者とのコミュニケーションの課題

前頁であげられた保護者とのコミュニケーションの課題については具体的に次のような回答があった。

言葉

★読み書きの問題
・「お手紙」をだしても伝わらない
- ○ 服装や持ち物のルール
- ○ 病気や薬の取り扱い
- ○ 行事の参加

・書類が書けない

★会話での問題
・電話では用件を伝えづらい。
・相槌を打つのに理解できてない。
・親が何を言いたいかわからない。

★工夫事例の回答
・翻訳機を使って会話
・英語・ローマ字のお手紙を出す
・ルビ振りややさしい日本語で伝える

文化

★宗教上のこと
・食べられないものがある。
・着替え時に配慮が必要

★日本と異なる文化
・厚着になりがち
・ミルクを長時間与えている
・虫歯が多い
・日本食になれるのに時間がかかる

★工夫事例の回答
・昼食を持参してもらう
・給食のメニューを変更する

その他

★病気や緊急時の対応
・発熱時での迎えの依頼、緊急時においても説明が難しい。
・感染症による出席停止等の理解を得られない。

★各保護者に関する理解
・保護者の日本語能力がわからない
・国籍を聞いていない（聞く項目がない）ので文化背景がわからない。

★工夫事例の回答
・ほかの保護者や地域の方、または自治体からの協力を得ている。

調査3：外国人保護者への聞き取り

綾瀬市居住（及び以前住んでいた）の3名の外国人保護者および支援者から保育園・幼稚園に関して意見を聞いた。国籍や来日背景の異なる方々から園の探し方及び手続、そして園に通っている中での現状や課題を聞くことができた。

※出身地域：南アジア、東南アジア、南米

01.園探しの難しさ

保育園は認定要件を確認することが難しく、幼稚園探しに関しても、多言語情報が少ないためインターネットの自動翻訳を使ったり、知人や夫の同僚、役所の方々などの協力がないとわからなかった。

02.手続きの難しさ

入園申込書の作成、手続き等については、入園する園の先生、友人、役所の通訳などに手伝ってもらってどうにか作成することができた。書類の作成だけでなく、いろいろなものを用意しないといけないことも大変だった。

03.入園後の印象・経験

幼稚園との連絡は（メールの手段はないので）電話か直接話す。メールで文字データ情報を送ってくれれば自動翻訳などで理解ができるのにと感じる。

書類は翻訳して渡されないため、多言語支援センターなどに読んでもらっている。ポケトークをつかって必要なことを話してくれる先生もいてありがたい。

宗教的な理由により、ほかの園児と同じ食事ができない、行事に参加できないことがあるが、親は「子どもがかわいそう」とは思っていない。

04.母国の保育園との比較

母国の幼稚園では、半日のみで給食はなく遊びが中心。

3歳から算数、母語、中国語、英語などを習うため、日本の幼稚園が物足りなく感じる。

05.小学校の準備の観点

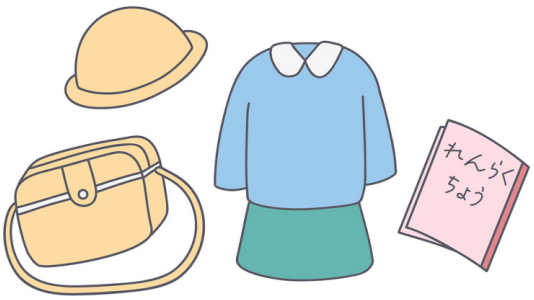
こどもが小学校に入っても困らないように幼稚園に通わせている。

園では小学校入学までに、名前を書く、あいうえおの準備をしてもらえるといい。

他国出身のママ友からも幼稚園では何も教わらないから小学校に入ってから困るという話を聞いた。

06.保育園申請のハードル

現在、働いていないが、今後、就職したいので、保育園に入園させたい。これまで何回も保育園への申請をチャレンジしたがもう疲れてしまった。仕事がないと保育園に申し込みができないが、就職するにも、子どもを保育園に入れていないと雇ってもらえない。非正規、また派遣会社を通した仕事では、産休や育休の制度を利用することも難しい。この職種の仕事をしたいという希望はないが、勤務時間の調整が可能で、育児との両立ができるような仕事を見つけたい。



これからできること

対応策 1

外国人住民に保育園・幼稚園の違いや手続き方法をわかりやすく示す

- 保育園幼稚園を紹介する多言語資料の作成（2022年度KIF）
- 母子保健担当課との連携により、少なくとも1歳半検診頃から情報提供を行う
- 外国人コミュニティや地域の外国人支援者などとの連携により、外国人住民に情報提供を行う

対応策 2

外国人住民が保育園・幼稚園に申請できるようコミュニケーション支援をする

- 市町村による通訳派遣制度の整備・充実（自治体の外国人相談窓口、多言語支援センターかながわの活用含む）
- 地域の日本語ボランティア等の申請書記載の協力等
- 地域の主任児童委員等が乳児期から母子と関わり必要な支援につなげる

対応策 3

保育園・幼稚園の現場で外国人対応がスムーズに遂行できるような仕組みづくり

- 保育士・幼稚園教諭向け外国人対応マニュアルの作成(2023年度KIFで検討)
- 多文化対応力に関する研修（2023年度KIFで検討）
- 市町村が地域の国際交流団体や市民団体と連携しサポート体制を強化

多言語資料：保育園・幼稚園のことを伝えるリーフレット

2023年2月公開
言語：中国語・ベトナム語・スペイン語・ポルトガル語・英語　（すべて日本語併記）

1ページ
日本には小学校に入る前に行くところとして大きく分けて2種類の施設がある。

外国人の子どもが通うメリットもある。

2ページ
保育園とは

申込方法や一日の流れ、主な費用など

3ページ
幼稚園とは

申込方法や一日の流れ、主な費用など

4ページ
申込の流れ

相談先

父と母の言葉と文化について

綾瀬市では、令和5年度（2023年）から、乳幼児健診（1歳半健診）にて外国につながる家庭にこちらのリーフレットを配布予定。

全国の自治体でもKIFのHPから自由にダウンロードして利用可能。

『外国人住民の未就学児が保育園・幼稚園に入るための仕組みづくり』調査の報告

発行：公益財団法人かながわ国際交流財団
発行日：2023年2月26日
協力：綾瀬市役所